



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織  
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 108) uniwish35号 (2021年1月)  
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号  
 (電話・FAX) 0952-28-2077  
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00  
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp  
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>  
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



## ★あけましておめでとうございます。 新しい年2021年、世界で1億4000万人の子どもが生まれます。 新しい命を祝福します。

★【2021年1月1日 ニューヨーク発】

2021年の元旦、日本では推定2,432人の赤ちゃんが生まれるだろうと、ユニセフ(国連児童基金)は本日述べました。日本で生まれる赤ちゃんは、世界で生まれる推定37万1,504人の赤ちゃんの約0.6%を占めます。

2021年、ユニセフは元旦にもたらされる新しい命を祝福します。世界では、元旦に生まれる赤ちゃんの半数以上が右表の10カ国で生まれると推定されています。⇒

また、2021年には、世界で1億4,000万人の子どもが生まれます。  
 (※推定出生数は、『国際連合世界人口予測 2019年改訂版』(The 2019 Revision of World Population Prospects)の年間出生数の指標を用いて算出。)

「子どもたちは、1年前とでさえ全く異なる世界に生まれてきます。新年は、その世界を新たに創造する機会でもあります」とユニセフ事務局長のヘンリエッタ・フォアは述べました。「今日生まれる子どもたちは、私たちが彼らのために作り始めた世界を受け継ぐことになります。2021年を、子どもたちのために、より公平で、より安全で、より健康的な世界の構築に着手する年にしましょう。」

## ユニセフは、パンデミック後の子ども達のために再創造(Reimagine)キャンペーンを開始します。

「世界が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック、経済の減速、貧困の増大、不平等の深化に直面している今日、ユニセフの活動の必要性はかつてないほど高まっています。過去75年間、紛争、避難、自然災害、危機のなかで、ユニセフは世界の子どもたちのために活動してきました。新年を迎えるにあたり、私たちは子どもたちを守り、子どもたちの権利のために声を上げ、子どもたちがどこに暮らしていようと、その声を確実に届けるとあらためて約束します」(フォア)

ユニセフは、パンデミックが子どもたちにとって永続的な危機になることを防ぐためのグローバルな取り組み「再創造(Reimagine)」キャンペーンを開始しました。より良いパンデミック後の世界に向けて行動を起こし(respond)、取り戻し(recover)、再創造する(reimagine)ために、参加するよう政府、市民や民間部門に向けて呼びかけています。



© UNICEF/UNI259392/Chute  
 2020年1月1日 0時10分に2,900グラムで生まれたミ  
 ティエリちゃん。(フィジー、2020年1月撮影)

1	インド	5万9,995人
2	中国	3万5,615人
3	ナイジェリア	2万1,439人
4	パキスタン	1万4,161人
5	インドネシア	1万2,336人
6	エチオピア	1万2,006人
7	米国	1万312人
8	エジプト	9,455人
9	バングラデシュ	9,236人
10	コンゴ民主共和国	8,640人



© UNICEF/UNI330294/Frank Dejongh  
 サン・パドロの保健所で赤ちゃんにおかゆを与える  
 母親。(コートジボワール、2020年5月撮影)

## 2021年は、ユニセフ創設75周年の年になります。

ユニセフはパートナーとともに、紛争、病気、排除から子どもたちを守り、彼らの生存、健康、教育の権利を守ってきた75年を記念してイベントや発表などを行う予定です。

# 前例のない規模で拡大を続ける新型コロナウイルス感染症。 ～子どもたちを守るためのユニセフの活動～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で9,000万人以上の感染が確認され、およそ200万人が命を落としています（1月14日時点：WHO状況レポートより）。また、215の国や地域で感染が報告されている中、21億人が家庭で安全な水を利用できておらず、450万人が安全に管理されたトイレを利用することが出来ません。

危機は今なお続いており、紛争や自然災害、気候変動によって以前から人道危機に直面していた国や、医療体制が整っていない途上国、難民キャンプなどの密集した場所において、急速な感染拡大の懸念が高まっています。

この危機下でユニセフは、急速に拡大するパンデミックから子どもたちを守りながら、母子保健サービスや栄養治療など従来の支援活動も継続して行なう責務を担っています。支援対象国は150カ国を超え、危機から1年が間もなく経過する今日でも、ユニセフの歴史のなかでも最も大規模な支援活動が、日々各地で続けられています。

## 《ユニセフの支援活動》

### ◆手頃な価格の「青い石けん」で新型コロナ感染症から子どもたちを守る

人口の半数以上が貧困で暮らすブルンジ。

東アフリカの国ブルンジで、ユニセフは、手頃な価格で質が保たれた「青い石けん」の普及と、石けんを使った正しい手洗いの啓発活動を通じて、子どもたちと家族が感染症から守られるように取り組んでいます。

ブルンジでは、国人口1,200万人のうち65%近くが、1日1.90米ドルの国際貧困ラインを下回る生活をしています。そのため、多くの人々にとって、価格が1個300ブルンジ・フラン（0.16米ドル）する固形石けんを買う余裕はありませんでした。

ユニセフは、ブルンジを含む世界各国で、手洗いのための設備をつくったり、「手洗いで命を守ることができる」というメッセージを学校やコミュニティで繰り返し伝えることで、石けんを使った正しい手洗いが日常の習慣になるよう取り組んでいます。

【2020年12月17日 ブルンジ発】



© UNICEF/UNI306245/Prinsloo  
ブルンジの小学校で手を洗う子どもたち



© UNICEF/UNI325655/Frank Dejongh  
村長の家に集まり、テレビを通じて授業を受ける子どもたち。この村には村長の家にしかテレビがない。（コートジボワール、2020年4月撮影）

### ◆教育危機 休校が子どもに及ぼす深刻な影響

【2021年1月12日 ニューヨーク発】

ユニセフ事務局長のヘンリエッタ・フォアは、パンデミックが2年目に入った今年、学校を休校にすることは最後の手段にすべきとして、以下の声明を発表しました。

子どもたちの読み書きや基本的な計算能力、21世紀の社会で生き抜くために必要なスキルは低下しています。子どもたちの健康や成長、安全、福祉が危険に晒されています。そして最も不利な立場に置かれた子どもたちが、最も重い犠牲を強いられるのです。学校給食がなくなった結果、子どもたちは空腹のまま、栄養状態が悪化しています。友達との日常的な交流がなく身体を動かすことが減った結果、彼らは体力を失い、ストレスの兆候を示しています。学校がしばしば提供するセーフティネットがなくなった結果、彼らは虐待、児童婚、児童労働に対してより脆弱な立場に置かれています。

だからこそ、学校を休校にすることは、他のすべての選択肢が検討された後の、最後の手段でなければならないのです。

### ◆ユニセフ、初めてイギリスの子どもに食料支援へ

【2020年12月18日】

設立70年以上になる国連児童基金（ユニセフ）は設立以来初めて、イギリスの子供たちに食料援助を提供することになった。パンデミックの影響で十分な食べ物を確保できない世帯が増えており、約2割の世帯で子供がおなかをすかせているからだという。

ユニセフは、ロンドン南部や南部デヴォンなどイギリス各地で貧困家庭の食料支援に取り組む市民団体や慈善団体連合に、数万ポンドずつの資金提供を始めています。

英南部プリマスで支援活動にあたるクリス・フォースターさん（写真の右）によると、支援食料を受け取り涙ぐむ家族もいるという。

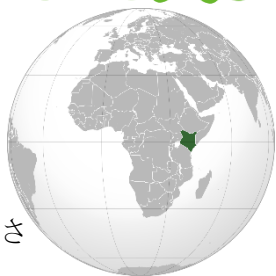


## ・2020年の成果（新型コロナウイルス対策）

皆様のご支援により、ユニセフは多くの子どもやその家族、医療従事者に支援を届けることが出来ました。

- ・ 30億人以上の人々に**感染予防のメッセージ**を届けた
- ・ 7,370万人に感染予防のため**手洗い用品**を届けた
- ・ 93か国に15,000個の**酸素濃縮器**を提供した
- ・ 7,480万人以上の**子どもや女性が必要な保健ケア**を受けた
- ・ 330万人の**保健医療スタッフ**が感染予防・コントロールに関する**研修**を受けた
- ・ 180万人以上に**防護具（ガウン、ゴーグル、手袋、フェースシールド、マスク）**を提供した
- ・ 学校が休校の間、学習が継続されるよう2億6,120万人以上の子どもたちが**遠隔教育（オンライン／オフライン）**の機会を得た
- ・ 7,470万人以上の保護者やケア提供者、子どもが**心理カウンセリング**を受けた
- ・ 2,260万人の女の子と女性が性的虐待や搾取の事例を報告するための安全な**通報システム**を利用できるようになった
- ・ 最低限の生活が維持できるよう、4,550万世帯が**基本的なニーズを満たすための支援**を政府から得た

# ケニアのゴゴは94歳で 小学校に通います



【テーマは…】

小学校生活で示される“学び続ける”大切さ

【興味をそそる題材です】

94歳のおばあちゃん、小学校の卒業試験に挑むケニアの小さな村で暮らしてきたプリシラ・ステナイ。3人の子ども、22人の孫、52人のひ孫に恵まれ、助産師のキャリアは75年を誇り、皆からゴゴ（おばあちゃんの意）と呼ばれる人気者です。自らが幼少期に勉強を許されなかったこともあり、教育の大切さを痛感していたゴゴは一念発起。周囲を説得し、6人のひ孫娘たちとともに小学校に入学します。

【映像が美しく壮大です】

「世界の果ての通学路」監督の巧みな手腕 アフリカを映すドキュメンタリーというと、弱肉強食のハードな世界を想像する方も多いのではないのでしょうか。しかし本作は、鮮やかな“色”が弾ける映像美が堪能できます

何歳になっても学びは始められる。大切なのは、学び続け、得た知識によって世界を変えることなのです。本作を見れば、きっと“あなた”のなかで何かが変わる。「自分も頑張ろう」、ポジティブな勇気と活力が胸を温めるのを感じながら、劇場をあとにできる一作です。



©Ladybirds Cinema



2月19日(金)～3月4日(木) シアター・シエマにて上映されます。

※上映時間は劇場までお問合せ下さい。

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原2-14-16 セントラルプラザ 3F ☎ 0952-27-5116

【情報提供:シアター・シエマ】

## ◆新型コロナ禍の中、オンラインや対面研修でスタッフのスキルアップを図る。

9月26日(土) 日本ユニセフ協会  
協定地域組織九州地区交流会  
〈熊本県ユニセフ協会担当〉

(九州地区5県から28名参加)

★講話:「今度こそ、復興を最後まで見届けたくて」

★講師: 熊本市役所設備課 宮古 睦 氏

★研修①:「各地域組織活動報告」

★研修②: 熊本県ユニセフ協会活動報告

・「アフリカの子どもの日」に参加して  
マリスト高校3年 東さん  
・第28回「アフリカの子どもの日」準備会

★指導・助言:  
日本ユニセフ協会



【オンライン会議】

【オンライン研修】

- 8月 4日(火) マリー・ルイズさん「ルワンダより現状報告」
- 9月17日(木) 日本ユニセフ協会オンライン授業意見交換会
- 9月18日(金) 地球市民の会「JICA 一時帰国報告」  
～パプアニューギニア～
- 9月28日(月) 早稲田佐賀中学校 「SDGs研修」

10月20日(火) 佐賀県ユニセフ協会スタッフ研修会

★講話: 駐在員が語る『難民をぬりかえる』

★講師: ケニア現地駐在員 駒橋 冨季 氏

★概要: 南スーダンからケニアに逃げてきた難民の生活と課題について、実際にカクマ難民キャンプで中等教育支援にあたって来られた話を伺いました。南スーダンは22年間の内戦がまだ続き、戻れぬ状況の中、キャンプにはマーケットがあり電気も通っていて生活には困らない。半数が子どもで識字率も低く、AARでは中等教育支援をしている。



難民は、様々な制限を受けてはいるが、かわいそうではなく、希望を持ち、前向きに努力する人たちが多く。生きるためのスキルをアクティビティに学ぶことが重要である。【対面研修】

11月11日(水) 日本ユニセフ協会学校事業部「キャラバン隊」

11月19日(木) 〃 「ユニセフ特別授業」

12月 6日(日) 熊本県ユニセフ協会  
「アフリカの子どもの日」研修会

12月9日(水) 早稲田佐賀中学校  
「SDGs×中村哲の遺産」

12月12日(土)  
日本ユニセフ協会「ユニセフ特別授業」





- 8月26日 (水) フードバンクさがへ バザー (中止) 用食料品の寄贈  
桑原廣子様へ事務局長より寄贈 <よってこ軒堀>



- 9月17日 (木) 佐賀県南部地区郵便局長会より事務所訪問  
使用済み切手 22kg 贈呈

- 9月29日 (火) SDG s 絵画展 応募作品の審査会 <佐賀市立図書館 多目的室>  
応募作品 308点の審査 \*審査員 井上信宏先生 森 和幸先生



- 10月4日 (日) 2020 さが国際フェスタ in 神埼 11:00~16:00  
ユニセフ・ブース出店で参加 (ユニセフ活動紹介)  
出店内容: ユニセフパネル展示



【アフリカの子どもの物語】  
【長谷部誠大使 ギリシャ難民訪問】  
SDG s 広報・缶バッジづくり



<神崎市: 王仁博士顕彰公園>

- 10月14日 (水) 佐賀県立白石高等学校 令和2年度キャリア教育講演会  
出前授業 <佐賀県立白石高等学校>  
講話: 「SDG s にどう取り組むか」  
~地球と人類社会の持続的発展の確保のために~  
対象: 白石高等学校 生徒 1・2年生 ⑤講座希望者



- 10月17日 (土) ~22日 (木) 第4回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展  
18日 (日) 表彰式&SDG s ミニ研修【中止】  
17日 (土) ~22日 (木) 入賞作品の展示 <佐賀県庁 県民ホール>

【詳細はP6に掲載】

- 10月20日 (火) ユニセフスタッフ研修会 10:00~12:00<佐賀県ユニセフ協会事務所>  
講話: 現地駐在員が語る「難民をぬりかえる」  
講師: AAR J apan ケニア現地駐在員 駒橋冨季 氏  
AAR J apan 佐賀事務局長 大室和也 氏



- 11月9日 (月) 太良町立多良中学校 出前授業 「英語」授業での国際協力授業  
講話: 「ユニセフ活動と国際協力」  
~自分にできることを考えよう~  
対象: 中学3年生 1・2クラス 42名



- 11月14日 (土) 国際交流協会30周年記念式典にて 表彰を受ける  
<ホテルマリタレ創世>  
表彰内容: 国際交流に貢献した団体



- 11月25日 (水) ユニセフ出前授業 ドリームパーク千代田中部小学校 夢・星組  
12月2日 (水) 「やってみよう ボランティア」 <神崎市立千代田中部小学校>  
\*SDG s 輪投げゲーム、SDG s ルーレットで遊ぼう  
\*ユニセフ学習「ユニセフと世界の子も達」  
\*自分たちにできるボランティア => 切手の整理



- 11月30日 (月) 佐賀市立諸富北小学校 ユニセフ出前授業 「人権教室」にて  
講話: 「ユニセフと世界のともだち」  
~ユニセフ学習を通して人権について考えよう~  
対象: 全校児童 241名 教諭約20名



- 11月 2日 (月)～12月31日(木) 第42回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 募金活動 【詳細はP7に掲載】  
 ＊2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のため街頭募金活動ができなかったため、それに代わる募金活動として、スタッフ全員で、学校・団体・家族内及び店舗での募金を呼びかけ依頼をして回った。  
 ＊依頼した箇所での募金箱回収 ハンド・イン・ハンド募金集計 円2,022,020円

- 12月28日(月) ボーイスカウト佐賀第5団 募金贈呈 10:30  
 ボーイ団員3名、カブ団員1名、代表者 1名  
 計5名来所



## ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 (株)田口電機工業様 母子草様 佐賀市南川副校区民生児童委員協議会様 北川歯科様 佐賀市南川副校区自治会長会様 佐賀市文化会館様 アルタ高木瀬店様 TSUTAYA鍋島店様 東洋館様 えんぴつ館様 恵比寿鍼灸整骨院様 団野法律事務所様 アルタ開成店様 サンシャレー様 ホテルニューオータニ佐賀様 サウンド・スピリッツ木原慶吾様 ぎょうざ屋様 三瀬そば様 ふくしま薬局通小路店様 西国御領風羅坊様 菖蒲ご膳様 ANA FESTA様 佐賀空港壺番館様 レストランカンフォーラ様 (株)北島マルボーロ様 多布施クリニック様 旅館あけぼの様 モンテカルロ太陽本庄店&匠大通り店様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 川崎自工様 手打ちそばうどん夢心様 天山カントリー北コース様 H&M Fido EXCEL様 村岡屋駅南店様 いっせい麺処様 村岡屋卸本町店様 山小屋ラーメン南佐賀店様 佐賀ギター音楽院様 れすとらん志乃県庁店様 H&M EXCEL W.E.N.S様 国府団地資源物回収協力会様 矢山クリニック様 内野産婦人科様 麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科様

コープさが生活協同組合様 佐賀市民活動プラザ様 佐賀県南部地区郵便局長会様 佐賀市役所子ども課様 西村会計事務所様 メガネのヨネザワ様 ヘルスランチあららぎ様 佐賀銀行様 佐賀玉屋様 ニチレキK・K様 佐賀県くらし環境本部県民協働課様 佐賀新聞社様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 佐賀市環境部循環型社会推進課3R推進係様 平尾建築コンサルタント事務所様 佐賀共栄銀行様 副島病院様 池田内科・皮膚科医院様 神崎市ドリームパーク様 西与賀公民館様 循誘公民館様 大塚製薬佐賀工場様 副島病院様 佐賀市高齢福祉課長寿推進係様 うめづ歯科・小児科様 第一生命様 夢プラット小城 栗山内科様

柳川市立矢ヶ部小学校様 佐世保市立鹿町小学校5年生様 佐賀西高等学校ボランティア同好会様 三養基高等学校様 佐賀北高等学校ボランティア部様 致遠館高等学校様 武雄青陵中学校様 佐賀清和高等学校様 弘学館高等学校様 龍谷高等学校様 佐賀女子高等学校様 佐賀女子短期大学様 佐賀学園高等学校・成穎中学校様 鳥栖商業高等学校様 KTCおおぞら高等学院様 佐賀市立諸富北小学校様 神崎市立西郷小学校様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 ボーイスカウト佐賀第5団様

(順不同:2020年8月16日～2021年1月8日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。  
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



### 賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

#### 日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

#### 賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
  2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
  3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。

# 第4回 SDGs 絵でつたえよう！ 『わたしたちの地球』を守る絵画展 《絵の展示のみ》

★ 第4回 絵で伝えよう『わたしたちの地球』を守る絵画展を10月17日（土）～22日（木）まで、佐賀県ユニセフ協会主催、佐賀新聞社共催で佐賀県庁1階県民ホールにて開催をしました。

## 持続可能な開発目標(SDGs)と絵画展



SDGsは2030年を目標に進められていますが、目標達成まであと10年となります。しかし、地球には解決しなければならない課題が山積です。「人間がずっと地球に住み続けられる未来」をつくるために、今、地球上のみんなが知恵を出し合い考え、行動を起こし、解決策を見出していかねばなりません。佐賀県ユニセフ協会では、絵画展を通してこの取り組みを推進しています。

今年は新型コロナウイルス禍の中、児童・生徒の夏季休業は3週間ほどと短かったにもかかわらず、308点もの作品応募がありました。会場には、日本ユニセフ協会賞はじめ、佐賀県ユニセフ協会賞、佐賀新聞社賞等の作品30点を展示しました。多くの方々に見ていただき、SDGsの啓発・広報となりました。



【会場受付の様子】



## ★ 審査会(9/29)



【森先生、井上先生による審査の様子】

## ★ 優秀作品の展示 (10/17～10/22)



【佐賀県庁 1階 県民ホールでの展示の様子】



## ★ 特別賞入賞作品

### 1. 日本ユニセフ協会会長賞

【龍谷中学校 2年 宮崎 凜さん】



私は、クジラを地球に見立てて描きました。皆さんクジラの目を見てください。泣いているのが分かりますか。なぜ泣いているかお分かりですね。

### 2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【江北小学校 2年 江口 向日葵さん】



地球をむしばむ細菌やウイルスは医療従事者のおかげで守られている。

### 3. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【昭栄中学校 1年 篠原 妃凜さん】



上にある燃えているペットボトルは、地球の海水温がこのままではどんどん上がってしまうことを表していて、地球を包み込んだビニール袋は、海の中にいる魚たちに悪い影響を与えているということを表しました。

### 4. 佐賀新聞社賞

【三日月小学校 5年 藤河 諒太さん】



ごみを取って海の環境をよくしている。

### 5. 佐賀新聞社賞

【若木小学校 5年 乙成真美子さん】



ちまちぼうキャンプ場の自然を守るえをかいた。

### 6. 佐賀新聞社賞

【清和中学校 2年 池田 和真さん】



悲しみの海 ～人間が変えたもの～

# Hand in Hand

第42回(2020年度)ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

2020年のテーマ  
「すべての子どもに  
かけがえのない  
『子ども時代』を」



例年、年末のユニセフ ハンド・イン・ハンド募金において、街頭募金を中心に実施しておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のために街頭募金は控えさせていただき、他の方法でのご協力を学校や家庭、団体様にお願いをしていきました。

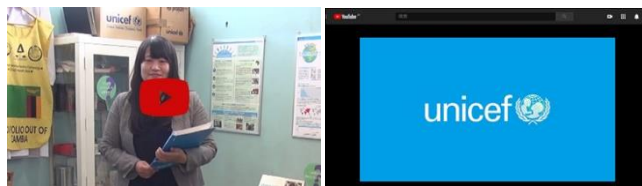
募金総額 ¥2,022,020

ご協力ありがとうございました。

## 今年のボランティアの方法

### ①知る・学ぶ

世界の子どもの現状をウェブ学習会や関連動画で学ぼう。



### ②発信する

自分たちの「子ども時代」を思い出し、SNSなどでシェアしよう。

#子ども時代を守ろう  
#ChildhoodChallenge  
#ユニセフ #HiH2020  
(ハッシュタグの活用)

### ③行動する

家族や学校や職場など身近な場所で募金活動しよう。



(募金箱)

2020年は、新型コロナウイルス感染症の流行によって世界中の子ども達から、子どもらしく過ごすことのできる『子ども時代』と呼ばれるとても限られた貴重な時間が奪われようとしています。特に紛争などでコロナ流行以前から、医療体制が脆弱な開発途上国では、子ども達の命と健康、そして未来が脅かされています。

日本ユニセフ協会は、『子ども時代』をテーマに掲げて、こういった世界の全ての子ども達にかけがえのない子ども時代を過ごせるための活動にご賛同いただき、街頭募金ができない中、上記の形での募金キャンペーンを展開していきました。



第42回(2020年度)ユニセフ  
ハンド・イン・ハンド募金  
～あつまれユニセフ・ボランティア～  
すべての子どもが かけがえのない「子ども時代」を過ごせるために、日本ユニセフ協会は、ユニセフの活動や世界の子どもたちのことを知り、広め、募金を呼びかけてくれるボランティアを募集しています。

## 2020年ハンド・イン・ハンド募金までの活動例紹介

#### ★ ボーイスカウト佐賀第5団の皆さん



・ボーイスカウトの皆さんは、12月のクリスマス会のイベントの時に、ファミリーボックスで家庭からの募金や当日の募金を集めてくださったそうです。

#### ★ 佐世保市立鹿町小学校5年生の皆さん



・鹿町小学校では、5年生の「総合的な学習の時間」に育て、収穫した米の販売した収益金を、毎年、ユニセフ募金にさせていただきます。

#### ★ 神埼市立西郷小学校5年生の皆さん



・西郷小学校では、5年生が育て、収穫したお米の収益金の一部と、全校児童に呼びかけて集めたポチ袋募金の全てを募金させていただきました。

#### ★その他にも、学校内や団体に募金活動をしてくださった皆さん、ありがとうございました。

弘学館高等学校 武雄青陵中学校 柳川市立矢ヶ部小学校 佐賀市立諸富北小学校 佐賀女子短期大学 佐賀女子高等学校 佐賀県立致遠館高等学校 佐賀西高校ボランティア同好会 龍谷高等学校 佐賀県立北高校ボランティア部 佐賀県立三養基高等学校 佐賀学園高等学校・成穎中学校 佐賀県立鳥栖商業高等学校 KTCおおぞら高等学院 佐賀清和高等学校 浄土真宗本願寺派少年連盟

# Unwish の仲間たち!



神埼市立西郷小学校のみなさん

—神埼市—

## ※ESD(持続可能な開発のための教育) 研究校

◆今年度から、佐賀県の研究指定校としてESD(Education for Sustainable Development)に取り組まれています。

現代社会において、グローバル化が急速に進み「持続可能な社会の創り手」の育成が求められています。西郷小学校では、生活科や総合的な学習の時間を通して、国連が2015年に採択した2030年までをめどにまとめた17の目標=SDGs(持続可能な開発目標)の中からそれぞれの学年で自分たちにできることに取り組んでいます。その活動を通して、子ども達に3つのC(Communication=伝える力、Care=思いやり、Continuity=継続する力)を育てていきたいと考えられています。

### 【学校紹介】

西郷小学校は、日隈山のふもとに位置する自然豊かな環境の学校です。また、校訓「**学び 愛し 翔る 西郷小**」をモットーに伝統を重んじ、伸びやかな校風を大切にされています。

地域の学校への思いも深く、管理棟の廊下に設置された『卒業写真のコナー』には、第1回目の卒業生から112回目の卒業生までの写真が掲示されており、圧巻です。長い歴史の中で一人一人が“西郷っ子”として大切にされていることを感じました。



5年生の皆さん、収穫したお米の売上金の募金をありがとうございました。

◆5年生は、米作り・農業の大切さを通して目標②「**飢餓を0に**」に取り組んできました。種まきから田植え、収穫から販売、そして、実際に米を炊いて食べるまでを体験しました。「きてみんしゃい祭り」では、お米販売時の手作りラベルを作り、保護者の皆さんからも人気だったそうです。その売上金をユニセフに募金として寄付してくれました。



【地域の方と稲刈り】

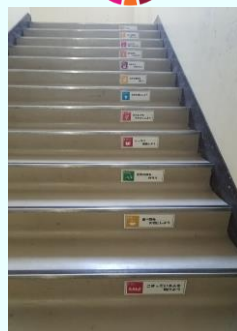


【お米販売時の手作りラベル】

◆6年生は、目標⑩「**住み続けられるまちづくりを**」に焦点を当て、未来のまちづくり『**がばいよか西郷のまちづくり～自分たちにできることをやってみよう～**』に取り組んでいます。2030年までに実践していくこととして、「きれいなまちづくり」を目指して校内の紙のリユースやリサイクルを全児童に呼びかける取り組みをしています。

◆4年生は、西郷校区の伝統工芸である尾崎人形づくりを体験し、目標⑨「**地域の郷土人形をまもる**」ためのPRするパンフレットも作成しています。3学期には実践し、取り組んだことを学校HPで発信していこうと考えています。

【階段には、「世界中のみんなが幸せになる17の目標」の掲示】



### ユニセフSDGs 絵画展で学校賞



### 11 住み続けられるまちづくりを

【リサイクル活動の様子】



### 9 産業と技術革新の基盤をつくろう



【尾崎人形の絵付け体験】

◆最後に、2人の担任の先生にこの活動を通して子ども達に望むことなどを伺いました。5年生の先生からは、【食生活の基本を大切に、フードロスなどにも気づき、実践していこうとする人になって欲しい。

6年生の先生からは、【学習を通して、自分達の住むまちを好きになって欲しい。また、まちを発展させることを日常の生活の中で取り組んでいける人材になってほしい。

2017年度、佐賀県ユニセフ協会主催の第1回SDGs絵画展において、当時の西郷小学校6年生の皆さんが全員で作品の応募をしてくれました。

(語り：田中裕子校長先生、5年生担任 大久保久美子先生、6年生担任 川浪博文先生 取材：江島きよ子)